

# フードツーリズムのインバウンド観光に関する課題（1）

## 情報収集の対象とする「食関連施設」

既存データベースから、地域産の食を活用した「見学」又は「体験メニュー」を提供している**236施設**を抽出し、電話・FAXにより、外国人観光客の受入可否、受入条件、受入実績等の現状についての情報を収集整理

（活用したデータベース）

- ①北海道経済部食関連産業室「食品工場見学ガイドブック」
- ②北海道経済部観光局「北海道の産業観光」
- ③北海道経済部観光局「ほっかいどう体験型観光ガイド」
- ④北海道経済部観光局「北海道のファームインー覧」
- ⑤北海道農政部「ふれあいファーム」
- ⑥各振興局ホームページ

## 外国人観光客の受入状況

▼上記の236施設について、電話・FAXにより外国人観光客の受入実態を調査

- ・無条件で受入OK＝「受入可」の11施設
- ・“要通訳”等の条件付きで受入OK＝「条件付可」の173施設

を合わせると、**全体の78%が受入れに前向き！**

了解が得られた144施設については、見学・体験内容、受入条件等を  
当局HPにて公開中！！

⇒ [http://www.hkd.mlit.go.jp/kanribu/chosei/kankou\\_12.html](http://www.hkd.mlit.go.jp/kanribu/chosei/kankou_12.html)

電話等による調査実施前後の状況

	調査前※	最終調査結果
受入可	31	11
条件付可	24	173
対応不可	42	28
要問い合わせ	40	0
記載／回答なし	99	24
計	236	236

※DBで把握できた状況

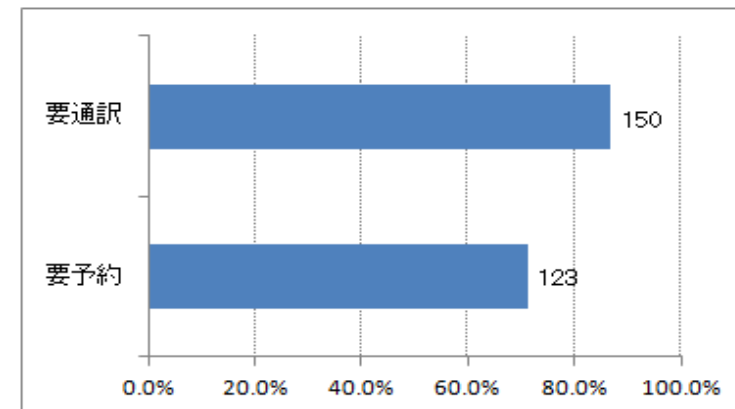
## 外国人観光客の受入条件

▼「条件付可」とする173施設のうち、

- ・“要通訳”の施設＝150施設（87%）
- ・“要予約”の施設＝123施設（71%）

であるが、“要予約”が外国人観光客特有の条件ではないことを考慮すると、**外国語への対応が大きな課題！**

条件付可173施設の具体条件



# フードツーリズムのインバウンド観光に関する課題（2）

## 外国人観光客の「対応不可」の主な理由

▼「対応不可」とする28施設の主な理由は、

- ・多くが「**外国語で説明できる者がいない**」
- ・一部で「伝染病などの病気の問題がある」（酪農体験を提供する施設）

## 外国人観光客の受入数

▼「受入可」（11施設）＋「条件付可」（173施設）の計184施設中、回答を得られた137施設のうち、

- ・『100人未満（実績なし含む）/年間』⇒90施設（66%）

であり、多くの施設で**外国人観光客の受入数は少ない！**

外国人観光客の年間受入人数

受入人数	件数
実績なし	34
30人未満	36
～100人未満	20
～500人未満	25
～3,000人未満	9
～10,000人未満	4
～100,000人未満	7
100,000人以上	2
計	137

## 外国人観光客受入施設の道内圏域別分布

▼「受入可」（11施設）＋「条件付可」（173施設）の計184施設のうち、

**半数近い83施設（45%）が道央圏に所在！**

道内圏域別の外国人観光客受入施設

圏域	施設数	割合	施設の種類の		
			工場見学	体験施設	果樹園
道央 (空知、石狩、後志、胆振、日高)	83	45.1%	32	30	21
道南 (渡島、檜山)	16	8.7%	9	5	2
道北 (上川、留萌、宗谷)	34	18.5%	11	20	3
オホーツク (網走)	14	7.6%	4	9	1
十勝 (十勝)	24	13.0%	12	11	1
釧路・根室 (釧路、根室)	13	7.1%	4	9	0
全道計	184	100.0%	72	84	28

# フードツーリズムのインバウンド観光に関する課題（3）

外国人観光客の受入れの現状や課題等を把握するため、外国人観光客を受け入れている食関連施設を対象にヒアリングを実施

外国人観光客を受け入れる食関連施設	<p>&lt;見学系施設&gt; ●北海道昆布館（七飯町） ●ニッカウヰスキー(株)北海道工場（余市町） ●柳月 スイートピアガーデン（音更町）</p> <p>&lt;体験系施設&gt; ●さくらんぼ山（仁木町） ●カントリーテラス コロポックル（中富良野町） ●渡辺体験牧場（弟子屈町）</p>
-------------------	--

項目	回答
外国人観光客受入実績・近年の動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>見学系施設は旅行ツアーに組み込まれていることも多く、団体客の受入が多い。</b> いずれの施設も受入実績は年間1万人を超え、<b>なかでも台湾からの団体客が多い</b></li> <li>・ 体験系施設は個人客の受入が多い。近年ではレンタカーを利用した個人客も増加</li> </ul>
外国人観光客受入のための諸条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6施設の全てが、<b>外国人観光客受入に当たって「特に条件を設けていない」と回答。</b> いずれも既に多くの外国人観光客を受け入れている実績があり、詳細な条件を設けないことが受入の間口を広げている</li> <li>・ <b>「口蹄疫の影響のある国で畜産に関連した方がいる場合は受け入れたくないが、畜産関係者かどうか確認することは現実的に難しい」という意見もあり</b></li> </ul>
外国人観光客受入の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全ての見学系施設で外国語パンフレットを用意。その他にも「調理方法や食べ方の多言語表記」「ビデオガイドや場内案内看板の多言語化」「レジ、ごみ箱、トイレの多言語表記」など対応が進んでいる</li> <li>・ 体験系施設は<b>片言の英語やジェスチャー、絵を使い、体験内容の説明を行うなどの受入努力。「かつて枝を折って持っていく外国人がいたが、最近は受付時に簡単な英語で注意事項を説明することによって理解してもらえている」など、試行錯誤しながらも受入体制を構築している施設も</b>みられた</li> <li>・ <b>一方で</b>「込み入った説明の時にどうしても理解してもらえなかったケースがあった」、「お土産購入時に袋の必要性を確認したり、試食、賞味期限などの説明をする時に困る事がある」、「ホームページが多言語化されておらず、海外への発信ができていない」など<b>外国語への対応も課題</b></li> <li>・ 「どの国の人かどのような食べ物を好むのか、どのような食べ物が食べられないのかがわからない」といった食文化や宗教の違いに関する情報の不足についても意見あり</li> </ul>
外国人観光客受入に向けたPR	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「特に積極的なPRはしていない」と回答した施設であっても、<b>雑誌、テレビ、WEBサイトに掲載されたことがきっかけで「外国人観光客が増加した」と認識。メディアによる情報発信は一定の効果</b></li> <li>・ 「商談会に参加して、海外エージェントとの関係を構築」と回答した施設は、観光客全体の約35%にあたる年間15万人の外国人観光客を受入</li> <li>・ <b>ヒアリング調査を実施した6施設のうち3施設は、地元観光協会との連携体制を構築しており、地域的な取組ができていると回答</b></li> </ul>